

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人恵仁会 グループホームふれあい
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	鹿児島県鹿屋市下祓川町1805番地
記入者名 （管理者）	林田貴久
記入日	平成 21 年 11 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、運営上最も重要と考えており、ケアの基本でもある。地域の中で生活するということは、これまでのつながりや輪を大切にしたい関係性にある。表面的ではない、地域で暮らし続ける本質を考え、入居者が安心して生活できる家づくりを目指した理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、日々のミーティングにおいて理念の具体的な実践について話し合っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域自治会の催事に積極的に参加している。また、小・中学生の体験学習などの受け入れを行いながら、生ごみのリサイクル等高齢者の知恵の伝授を行っている。見学等も随時受け入れを行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩される方に気軽に声をかけふれあいに立ち寄って頂く配慮を行っており、近くの畑に散歩に来られた方からは、野菜作りのアドバイスを頂くことが多い。また、地域の高齢者クラブや公民館等で要請を受けて啓発活動も積極的に行っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会の催事には積極的に参加しており、中学生の体験学習も受け入れながら高齢者の知恵の生ごみのリサイクルの方法の伝授も行っている。運動会や棒踊りの見学等を楽しまれている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症ケアの実践を通し鹿屋市と共に認知症サポーター養成講座の講師を務めている。サポーターは、小学生から高齢者まで幅広い。また、その内容は運営推進会議等を利用し地域の役職のメンバーにも報告している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、前回の結果を共有しつつ自己評価で日頃のケアを振り返って、さらなるケアの向上に生かしている。また、家族会や推進会議等では必ず報告し、ご意見を伺っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域自治会の副会長等の地域の代表や地域包括支援センター職員、市の職員が出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、相談等も行っており、運営に役立っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当部署や法人内にある地域包括支援センターへの相談を通して、問題解決に向けて協働して取り組んでいる。分からないことは市に問い合わせている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学んでおり利用者の家族からの相談にはアドバイスをを行っている。また、県等が主催する研修にも積極的に参加して職員間での共有を図っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会でも学んでおり、毎月のミーティングや日常の会話の中で虐待について関心を持てるような話題の提供を行っている。管理者は鹿児島県認知症指導者も兼ねており、県の権利擁護等の研修で講師も務めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす時に、家族への説明は丁寧に行い不安や疑問点には十分な説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は認知症であっても他者に対する配慮の気持ちを持っている。不満や苦情は、普段の会話から率直に聞かれる場合が多い。不満、苦情と言うよりも生活における不自由さの解消であったり、家族への思いだったりすることが多い		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書の発送時に、写真を載せたお便りで近況をお伝えしている。金銭については家族会時に残高証明を頂いている。職員の異動はあまりないが、家族会等で紹介している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所には意見箱の設置や第三者委員会を設けるなどしており、家族会等を通じて広く意見不満苦情等をお聞きする働きかけを行っている。現在不満や苦情は入っていないが、意見等は法人内の会議や毎月のミーティングで周知し運営に反映する仕組みである。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、事業所のミーティングで職員の意見を聞き、毎月の法人内の会議で意見や提案を行う。必要に応じて、法人の意見を参考に出された意見に対して反映できるよう務めている。最近では、業務内容の見直しなどより利用者視点に立ったケアができるように随時行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に柔軟に対応するために状況によっては勤務変更を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	状況や環境が変わらないことが、利用者にとって必ずしも好ましいと言う見解は持っていない。当然、離職がないような環境作りには配慮している。例えば個別での職員面接の実施で気持ちの確認を行っている。不必要な職員の異動はあまりないが、必要な異動は行い、利用者や家族へのダメージには十分配慮し説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会は年間6回行われており、その他の外部研修にも勤務に支障をきたさないように積極的に参加し、研修結果は毎月のミーティングを通じて他の職員への周知を図っている。全国大会等での発表も定期的に行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、大隅地区グループホーム連絡協議会の会長を務め、地域の同業者と共に研修会を企画するなど、サービスの向上に取り組んでいる。協議会の研修も年間計画に沿って、実践者レベルから管理者レベルまで幅広く実施している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は年間を通して、旅行や新年会忘年会等の企画を取り入れ職員がストレスをためない工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、年間2回の自己評価等を取り入れ、努力や実績により人事考課を行う。また、忘年会等で表彰を行い各自がモチベーションを保ち能力を発揮できるように支援している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談には親切丁寧に乗り、入所後利用者が慣れるまでは特に不安や心配事に耳を傾ける支援を行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から入所に至るまで相手の求めに応じ家族との信頼関係を築ける努力をしている。特に個別での面接や話し合う機会を重視している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に対し、場合によっては関連機関と連携し、適切なサービスの支援の提供が出来る様に話し合っている。最近では、行政、病院のソーシャルワーカー、本人、家族を交えた協議を行った事例がある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談に来られた時に、ふれあいの生活の場を見学して頂き、納得したうえでサービスが利用できる支援を行っている。また、利用料に関する説明も十分に行っている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を家族のように生活の場に参加していただくことにより、機能の維持向上に繋げているため、毎日笑いが絶えない。一方ターミナルケアも行い。苦しい時には利用者と共に居室に赴き励ましの言葉をかけられていた。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支えることを自覚し家族と職員は共に支えあうべき関係性を築くよう援助を行っており、親しく声を掛け合っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の生活歴に重きを置き、家族と本人の仲を取り持ち、お互いが良い関係を築ける言葉かけに努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が訪ねてこられた時はお茶でおもてなしするなどの配慮を行い、関係が持続できる支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の個性を尊重し、お互いに不愉快な感情に至らないような配慮を心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された家族とも親しく相談支援が出来る環境が構築されており、退所された家族が遊びに来られることが多い。また、退所後の必要な支援は継続して行う。退所＝関係性の終了とは考えていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや意向を把握しており、個別の援助に努めている。体調等の異常時はこまめに連絡を取り、病院受診の援助も行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や暮らし方の把握はされており、回想法等や散歩、畑作り等を行いながら利用者が落ち着いて暮らせる援助を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランを基に全員が同じではなく9名の利用者の状況を把握し、その能力に応じ生活や機能訓練の援助を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は本人や家族との話し合いや職員等に意見を求め作成されている。アセスメントは特に重視し、家族からの話や個性が活かされるよう検討している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、必要に応じた見直しを行うとともに、本人や家族に意見を求めて現状に即した計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を24時間シートを利用し、記録で本人の体調が分かるように配慮している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意見を尊重しながら家族の要望の病院受診や理美容等、柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向で観劇やドライブ等も積極的にしており消防の協力で火災非難誘導訓練も実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームに入居されているため他のサービスは利用していないが今後必要になった場合は取り入れる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ権利擁護に関する制度の必要性はないが、地域包括支援センターの主催する研修には参加し連携は保っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院とは常に連携しながら援助が出来るため家族からは「安心」の声がいつも寄せられている。訪問看護との医療連携もあり、細やかな健康管理の情報共有と必要に応じた指示をいただき早期対応ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同敷地に認知症の専門医がいる為に親しく相談出来る環境であり、研修会も折にふれ行われている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所は訪問看護ステーションと契約をしており、看護に関する疑問や日常の医療の困りごとは気軽に相談している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時は毎日お見舞いに行くとともに、病院のDrやNsとは情報交換を行っており、早期の退院をお願いしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にも説明はしているが、本人の状況に応じ家族に意見を求めかかりつけ医や訪問看護師を含めた話し合いを行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ここで出来ないこともある為、家族やDrと十分な話し合いの場を設け利用者の状態を見極めて対処している。ただし、これまでにお二人の看取りを実施し、急性期以外の場合には極力家族の希望を聞き、ふれあいでのケアが可能となるようスタッフ間で話し合っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族の意向をお聞きしながら、他の場所に移り住む場合には十分な情報の提供を行い本人のダメージを防いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定期的に研修を行い誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけに対してはお互い注意をしあっている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の生活の中での決定権は大切にしているが散歩や入浴、排泄などは今拒否されても再びの声かけで行かれることがある。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はパーソンセンタードケアを理解しており、自分で希望を訴えられる人は、希望に沿った援助がおこなわれている。また、意思表示が難しくてもそれまでの関係性や家族との話し合いから本人の思いを汲み取った支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容については本人が希望したお店にお連れしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はとても大切な行為なので出来るだけ季節の野菜を多く取り入れながら、利用者の状況に応じて野菜を刻んだり盛り付けを手伝って頂いている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常の楽しみを奪わない援助がおこなわれており、家族からの差し入れのおやつ等も職員が他の人への配慮を行いながら援助している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的な排泄の援助を行うことにより利用者のおむつ使用は減っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望や体調に配慮して援助している。入浴を嫌がられる場合には、無理強いせずに時間を変えるなど個別に対応し、ゆっくり楽しんで頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の時間はゆっくり休んで頂くためにも日勤帯で散歩や機能訓練、家事能力に沿って出来る機能に働きかけ気持ちよく休んで頂ける支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、お天気の日には散歩に出かけ畑の野菜や田んぼの状況から季節を感じ楽しまれている。また、季節に応じた保存食作りや昔ながらのチマキ作りや餅つきも楽しみの一つで、それぞれの役割を見出している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を理解し使える人は1人しかいないが、本人の希望で買い物に行く支援は行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の日には必ず外に出て季節の移り変わりを感じて頂いている。また、その人の状況により歩行訓練も取り入れている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の意向で観劇やドライブ等も積極的に行っており、「海に行きたい」希望の利用者が3年がかりの機能訓練の結果、砂浜を歩くことが出来た。その他の利用者に対しても外出の援助は行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話の取り次ぎを行っている。また、手紙を書けなくなった入居者に代わり手紙で近況を伝えたりもしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の来宅には本人、職員が歓迎するとともに居室でゆっくり会話していただけるように、お茶をお出した後はゆっくりくつろげるように職員は極力タッチしない配慮を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しては、拘束による弊害を理解するために毎月勉強会を行い職員全員が周知出来る環境を整えている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間1人になるとき以外は玄関に鍵をかけていない。職員は常に利用者がどこにいるかを把握し職員がお互い声を掛け合い、利用者が外に出られたときはそっとついて歩く。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら、職員は常にお互いに声かけを行い、利用者の所在を確認し安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者1人ひとりの状況の把握を行いながら、その人にとって危険なものは排除し、事故につながらない援助をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全委員会を中心にアクシデントやインシデントを生かし事故を起こさない工夫を行っている。また、定期的に救急救命の研修を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生に備えて連絡先等の周知を図るとともにミーティングを利用し応急処置や初期対応の訓練は行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難誘導訓練を行っており、近隣の施設にも協力を得られるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族来宅時に日常生活の様子をお伝えするとともに、起こり得るリスクについては家族に説明している。事故が起こった場合には職員全員で改善策を出し合って再発防止に繋げている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常のきめ細やかな観察で夜勤、日勤の連絡を密に行いながら、異常時は訪問看護ステーションやかかりつけ医に相談し、速やかな対応を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については職員全員が周知し3回の確認を行い記録している。利用者の状況の変化で薬が疑われる時には速やかにかかりつけ医や薬剤師に相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘については特に配慮しながら出来る限り食物や運動による自然排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の不衛生は誤嚥性肺炎の原因にもなることから、毎回の口腔ケアの援助を行い、口の中の異常の訴えに対しては速やかに歯科受診を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1400キロカロリーの食事の提供と体重に応じた水分量の摂取の援助に努め、法人内の管理栄養士からアドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症については毎月研修を行っており、利用者はもちろん職員も感染しないよう予防に心がけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理する人はもちろん、利用者も調理に参加することもあり、手を洗ったらペーパーで拭くことを基本に、食材も新鮮で安全な食品の調達に心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には鍵をかけずいつでも誰でもはいれるようにしており、季節の花を植え親しみを感じられるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの場所に応じた配慮を行っている。居間は昼から太陽の光が入る為カーテンは欠かせない。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は少し暗い廊下のソファが落ち着き、安心して会話が弾んでいる。そのため、他のイスも準備している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明し使い慣れた家具を持ってきて頂いている。また、家族との思い出の写真等も持って頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ポータブルトイレを利用する居室はにおいがこもる為、まめに訪室しながら換気しており消臭剤等の利用も行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部はバリアフリーとなっているが玄関には階段もあり、利用者の状況に応じ階段を利用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	9名の利用者はそれぞれの個性や状況があり、職員は個別のケアを理解し混乱されないような援助を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには洗濯物の他季節により干し柿づくりなどを行い、畑には常に季節の野菜が植えてあり収穫の喜びを味わっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「ここにこられた方は必ず状態が改善します」といつも断言しています。日常生活に張りを持って暮らして頂くためにも、少し努力して大きな喜びに変えていける支援を目指して日々の散歩や生活の中のリハビリに取り組んでいます。